

オープン市場短信 (2016年6月)

2016.6.10

◆ 5月のCP市場動向

5月末のCP（短期社債）発行残高は14兆2065億円と、前年同月比で▲1兆7368億円の大規模減少となり、8か月連続して前年を下回る結果となった。マイナス金利の影響で、金融機関の資金調達ニーズは著しく後退し、前年同月と比べ▲2兆1484億円の減少となっている。全体的に月中旬までは、新規発行が少なく閑散なマーケットだったが、月末に近づくにつれて法人税等の支払いや賞与等から一般事法の発行需要が高まり、前月対比では小幅増加だった。内訳を見ると、一般事法で+5177億円、その他金融で+1297億円の増加となり、金融機関で▲4261億円の減少、ABC Pで▲2198億円の減少となった。

発行レートの動きは、銘柄や期間を問わず、ほぼ0%近辺での出合いが中心となるなか、一部銘柄ではマイナス金利での出合いも観測された。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	5月末残高	4月末残高	増 減
一般事法	42,386	37,209	5,177
その他金融	67,769	66,478	1,291
金融機関	18,558	22,819	-4,261
政府系金融	0	0	0
銀行等	7,915	9,090	-1,175
証券	10,643	13,729	-3,086
ABC P	13,352	15,480	-2,128
計	142,065	141,986	79

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

5月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	▲ ~ —	▲ ~ —	▲ ~ —
a-1 (一般事法)	▲ ~ 0.0049%	▲ ~ 0.0003%	▲ ~ 0.0012%
a-1+(リース銘柄)	0.0000% ~ —	0.0000% ~ —	0.0000% ~ —
a-1 (リース銘柄)	0.0000% ~ 0.0015%	0.0000% ~ 0.0001%	0.00001% ~ 0.0050%
a-2	0.0030% ~ ケ0.20%	0.00005% ~ ケ0.20%	0.0012% ~ ケ0.20%

《CPオペ》

5月のCP等買入オペは、10日が3000億円・18日が4000億円・26日が4500億円と前月対比で増額オファー傾向であった。オペの需給要因として、4月末のCP発行増額を契機に、10日のオペの応札額が1兆1000億円を超えるなどディーラーの売却ニーズから、平均落札レートは上昇した。一方で、18日・26日のオペは、予定オファー額に加えて当日段階で+500億円を増額されるも、応札可能な銘柄が多いこともあり、平均落札レートは▲0.004～▲0.001%と、引き続きディーラーの売却ニーズが強いことが確認された。

【月末オペ残高：2兆3009億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
5月10日	5月13日	3,000	11,503	2,994	-0.002%	-0.002%	85.3%
5月18日	5月23日	4,000	9,619	3,984	-0.001%	-0.001%	65.8%
5月26日	5月31日	4,500	7,529	4,495	-0.014%	-0.004%	48.8%

《ABCP》

ABCPの月末残は、前月比▲2128億円減少の1兆3352億円であった。前年同月比では、▲2126億円の減少となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、5月末時点における発行登録企業数は、伊藤忠丸紅鉄鋼・合同会社アリモネ3・静岡ガス・国際石油開発帝石の4社が新規登録を行ったことから、517社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0%近辺での出会いとなっていた。

◆ 6月のCP市場動向

6月のCP償還額は約3兆3900億円で、前年同月の償還額(約3兆5900億円)を下回っている(除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABCP)。

今月の発行動向は、一般事法の賞与資金手当て等の要因から活況を予想する。しかし、月末残高は、有利子負債の圧縮目的で月越物が減少する事や金融機関の発行減少もあって、13兆円台後半と前月を下回ると思われる。

発行環境は、発行体優位な状況に変化は無いが、発行量の多い銘柄や月中償還物はややレート上昇が予想される。

発行レートは、一般銘柄（1格）で0%~0.005%近辺、その他金融・リース銘柄（同）で0%近辺~0.06%程度の出合いを予想する。

《CPオペ》

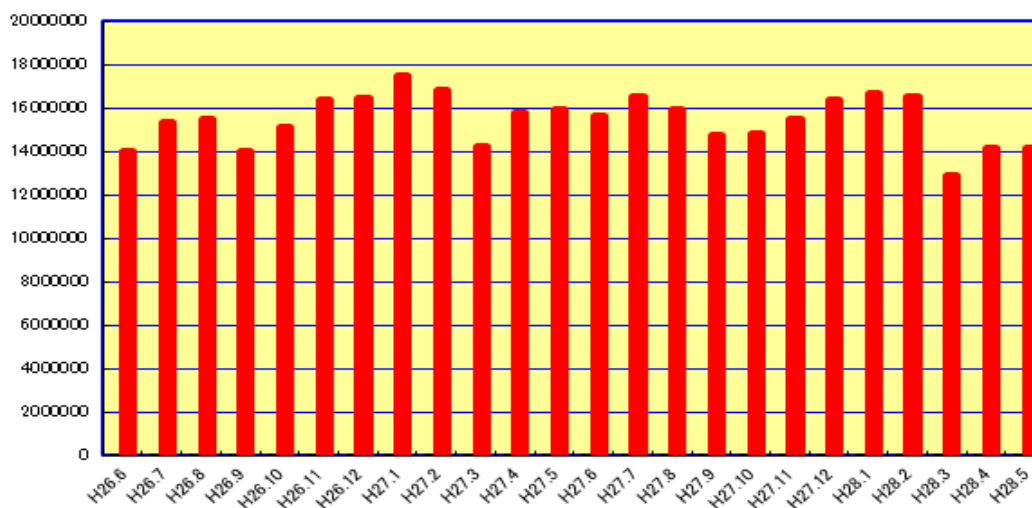
今月のCP等買入オペのオファーは、6日（実施済）と15日、27日に各々4500億円程度と、前月比で増額となっている。6日のオペは、ディーラーの売却ニーズが強く応札が1兆242億円となり、前回オペに比べ平均落札レートは上昇した。15日以降のオペについては、オペの増額要因と応札可能な銘柄にもよるが、横這いから低下地合いを予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは、▲0.06%~▲0.10%程度での出合いが予想される。CP現先レートは、先月と同様に発行レートと同水準の0%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（26年6月~28年5月）



5月末発行残高ベスト10

5月末発行残高上位10社

(単位:百万円)

	発行企業名	5月末残高	4月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	882,700	903,200
2	三菱UFJリース	817,300	813,500
3	東京センチュリーリース	586,900	589,300
4	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
5	JXホールディングス	455,000	317,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	412,850	503,580
7	みずほ証券	390,500	502,500
8	興銀リース	359,800	364,800
9	新日鐵住金	349,000	299,000
10	芙蓉総合リース	342,200	340,700

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会